

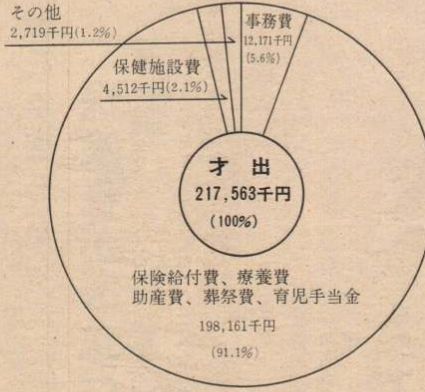
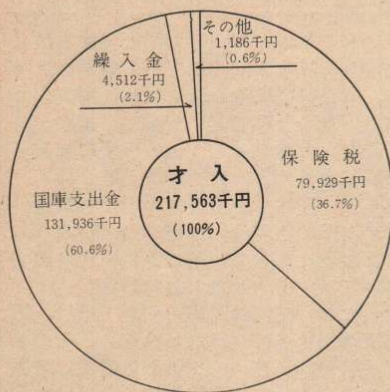
市 の 国 保 予 算

- ◆国保をささえる二本の柱は、保険税と国庫支出金です。
- ◆一般会計から約450万円を繰入れます。この額は、保健施設活動に必要な経費で、これによって保険税は、一世帯当600

円を減じたことになります。

- ◆支出の91%は、保険給付で、保険税の約2.4倍となって、みなさんの医療費に使われます。

昭和43年度国民健康保険会計予算



保険給付費(市負担分)と保険税の比較

保険税を上まわる給付費

図表は、保険給付費と保険税の差を、わかりやすくするためにつくったものですが、どの年も保険税より給付費の方が大きく上まわっていることや、国の支出金が保険税よりも多いことがわかります。

これらを1人当りに換算してみますと、保険給付費では、40年度に3,641円であったものが

42年度では7,097円となり、約2倍になっております。

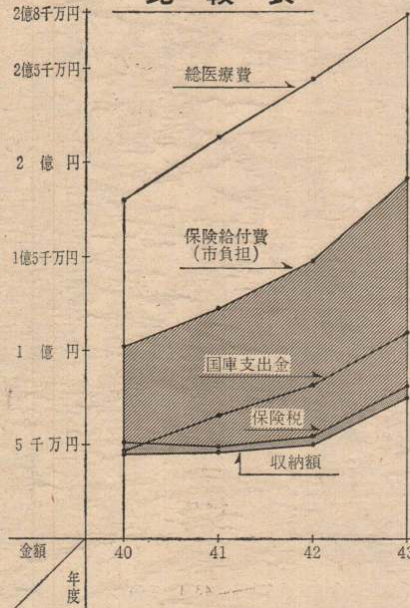
これは、国保に加入している人全員に対しての7割給付や医療費の改正、病気が重くなってからお医者さんにかかることによって上昇したものです。

これに対して保険税は

40年度は、1,798円であったものが

43年度は、2,960円になり、約1.6倍になっております。

比較表



あぶない！ 交通事故

走る凶器とか、交通戦争などといわれ、毎日のように尊い生命が奪われています。

自動車事故は、被害者にとっては一家の平和を乱され加害者にとっても、一寸した不注意から体刑や罰金、その上賠償という大きな問題を背負うことになり、両者にとってこれ程悲惨なものはありません。

事故を未然に防止するには、運転者も歩行者も、お互いに交通法規を守ることが大切です。

自分だけは絶対にあわないぞと、いいきれるときではありません。不幸にして被害者になった場合どうしたらよいか、常識として心得ておかねばならないことはたくさんあります。

▲国民健康保険を使うときは届出をしてください。

国民健康保険を使って診療を受けたときは、国民健康保険が医療費を支給することにより、これは加害者が行なわなければならないことを、市の国保が代って行なうのです。したがって、その立替えて支払った損害金の請求の権利は、国保が被害者に代って取得することになりますので、交通事故の場合は必ず、市の保険係に電話などでそのことを連絡してください。

▲届出前に示談しないこと。

示談とは、裁判をやらないで当事者の間で話合って解決することをいいます。

被害者は国民健康保険を使った場合、医療費を考えないで示談しないでください。被害者が医療費を考えないで示談しますと、市の国保では被害者に支給した費用の賠償を、加害者から受けることができなくなります。

▲万一自動車事故にあったら

自動車事故にあったときは、次の事を必ずおぼえておいてください。

事故発生→相手を確める→
→警察に連絡
→市の保険係へ連絡

- 1, 自動車の番号、色、型、名称
- 2, 相手会社の名前
- 3, 免許証(住所氏名)
- 4, 車の持主
- 5, 業務上の発生が否か

- 1, 第三者行為の傷害届
- 2, 警察発行の事故証明書
- 3, 医師の診断書
- 4, 示談が成立したら示談書(写)

加入者に異動があった時は

14日以内に届け出を

国保についてのいろいろな届出は、法律で世帯主がするように義務づけられております。

次のような場合は必ず14日以内に届出をしてください。

- ▲出生、死亡、転入、転出、職場保険の加入脱退、住所の変更および世帯主の変更
- ▲修学のため、他の市町村へ行くとき、および一時出かせぎで住所を離れるとき(このような場合は、特別に被保険者証を交付します)

健康で明るい生活は 私たちの日常生活から

右の図表をみておわりのとおり、1位の高血压、8位のガン、そして10位の中枢神経血管損傷などをみても、成人病のしめる割合が多くなっております。

反面、かつて亡国病といわれた結核も、徹底した予防対策と医学の進歩によって非常に少なくなりました。

この図表に表われた成人病、消化器系の病気も、神経系運動の疾患も生活改善と予防対策によって、やがては減少していくことと思われます。

私たちが日常、実行できるこれらの予防についてのべてみましょう。

1. 病気は早いうちにおしておくこと。
2. 寒さから、充分にからだを守ること。
3. すい眠を十分とること。
4. むりな肉体的、精神的過労をさけること。
5. 食事は腹8分目にすること。
6. 米飯偏重をさけ、麦の混合食をとり、バランスのとれた食事をとること。
7. 塩分や動物性脂肪をとりすぎないこと。
8. 適当な体操をし、血のめぐりをよくすること。
9. 病気を恐れず、定期的に検診を受けること。

以上のことを各人が注意することによって、健康で明るい生活が維持できることになります。

昭和42年9月診療の病類別医療費調

(順位10位まで)

